

パークレンジャーと行く！ 小平の生きもの調査隊シーズン2を実施しました！

日時：2021年8月28日（土）
場所：小平市立あじさい公園



パークレンジャーから
自然環境調査の目的について説明



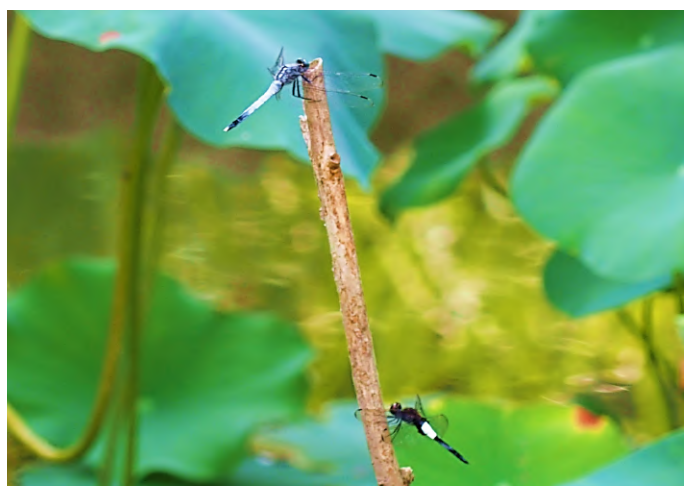
スウィーピング法※による
小昆虫の調査を体験



ビーティング法※のレクチャー
パークレンジャーが本格調査法を紹介



昆虫の種類の見分けにチャレンジ！



池の調査ではトンボ類を多数確認！
(上：シオカラトンボ、下：コシアキトンボ)



お気に入りの生きものに
なりきって記念撮影

※スウィーピング法：網で草葉を払うように虫を捕まえる方法
※ビーティング法：枝葉をたたき、落ちた虫をネットで受けとめる方法

■発行：小平市 環境部 環境政策課
■編集：特定非営利活動法人NPO birth



こだいらの 自然と生物多様性

小平市立あじさい公園 調査報告



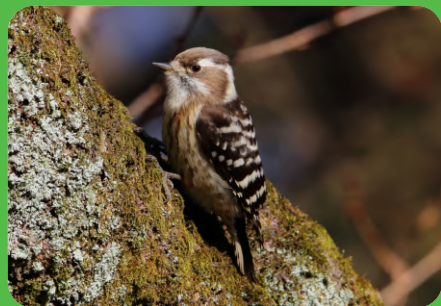
水と緑のつながりは小平市の自然を豊かにしており、市内の雑木林や用水には数多くの生きものが暮らしています。生きものどうしは複雑に関係し合って生きており、種類が多ければ多いほど、生態系は豊かになります。このことを生物多様性と言います。食べものやエネルギーなど自然の恵みを受けて生活している私たち人間も、この生きものたちの輪の一員です。

このリーフレットは、生物多様性への理解を深めるとともに、生物多様性に配慮した行動に繋げるために開催した、**市民参加型調査体験プログラム**の成果を掲載したものです。身の周りに生息する生きものを市の貴重な財産ととらえ、私たちの手で守っていきましょう。



市立あじさい公園の特徴について

今回の調査地は小平市あじさい公園。ここは窪地に残されたクヌギやコナラなどの雑木林を活かし、あじさい鑑賞の名所とするために昭和48年に開園した公園です。アジサイの植栽とともに、水辺の風景を楽しむために池も整備されました。公園の面積としては2,766㎡と市内ではそれほど大きな緑地とは言えませんが、今回の調査では168種もの生きものを確認しました。



コゲラ
小平市の鳥。キツツキの仲間
で枯枝をつつき、中の小動物
を食べる。



オナガ
長い尾羽が特徴のカラスの仲
間。木々が茂った暗い場所を
好む。



ニホンカナヘビ
雑木林や畑などにすみ、石の
上などで日向ぼっこすること
が多い。



アズマヒキガエル
普段は雑木林などの陸にすみ、
産卵の時に水辺に集まる。



ニホンアカガエル
草地や雑木林にすみ。まだ寒
い早春に浅い水辺に集まり産
卵する。



ショウリョウバッタ
武蔵野の草地の代表種。明る
く草丈の低い、イネ科の草む
らを好む。



クロスジギンヤンマ
胸部の2本の黒い線からこの
名前が付いた。ギンヤンマ
よりも少し暗い水辺で卵を
産む。



タチツボスミレ
(花:3~5月)
手入れされた明るい雑木林
に生える。種子はアリに運
ばれる。



キツネノカミソリ
(花:8~9月)
ヒガンバナの仲間。葉は夏
になると枯れ、その後花
が咲く。

希 国または東京都の絶滅の恐れのある生物をまとめた「レッドリスト」に掲載されている種類



生きもの調査結果

■ 確認した生きものの種類：168種

→植物：70種（園芸種・植栽を含む）

・木本 29種 ・草本 41種

→動物：98種（飼育品種を含む）

・鳥類 10種 ・爬虫類 1種 ・両性類 2種 ・魚類 3種

・昆虫類 79種 ・甲殻類 2種 ・軟体動物 1種

■ 希少種：5種

→環境省レッドリスト（2020）、東京都レッドリスト（2020）に
掲載されている種

・キツネノカミソリ（絶滅危惧Ⅱ類）・オナガ（準絶滅危惧種）

・ニホンカナヘビ（絶滅危惧Ⅱ類）

・アズマヒキガエル（絶滅危惧Ⅱ類）

・ニホンアカガエル（絶滅危惧IB類）

■ 侵略的外来種：6種

→環境省の「生態系被害防止外来種リスト」に掲載されている種

・ビワ ・トウネズミモチ ・ホテイアオイ ・グッピー

・アカボシゴマダラ ・アメリカザリガニ



なぜあじさい公園には生きものが多いの？

調査の結果、公園の規模のわりに種が多く、絶滅の恐れのある希少種も含まれていることが分かりました。それには3つの理由があります。

- 昔ながらの在来種で構成された「武蔵野の雑木林」環境が残っている。
- 樹林、草地、水辺と、園内に多様な環境タイプが存在している。
- 連続した緑地である、都立狭山・境緑道や小川用水が隣接している。

水と緑が網の目のようにつながり、生きものが緑地や水辺を往来できると、地域の自然はより豊かになります。これをエコロジカル・ネットワークと呼びます。水と緑のつながりは小平市の自然の大きな特徴であり、あじさい公園はネットワークの重要な拠点であることが分かりました。



武蔵野の雑木林の特徴が
色濃く残る樹林



水辺と陸地が隣接すると
生物多様性が向上する



10 km続く緑道と隣接し、
ネットワークの拠点に